

【ねがいましては】

平成23年1月25日

KYOWA SCHOOL

第243号

「やまい」

子供たちを眺めていると、実に興味深い現象が見られます。

このところ重なるように目にした光景です。

A君は、かなり勉強嫌いになった状態でやってきました。立ち直れるかどうかは、自分をどこまで真正面から見つめられるか。そして何より大切なことは、彼に対してご家族の温かい愛情が注がれるかにあります。

学校でのテストなどのときに、返却されたテストの「バツ」の部分に十分な時間をかけ、何が原因でバツだったのか……。これはかなり勇気のいることです。なぜなら、わからなくて苦しんでいたときの自分を思い起こすことになるからです。誰でも苦境に立たされている時の自分を、リアルに再現したくはありません。運動会での徒競走のとき、ビリを走っている自分を思い出したくないのと同じです。

しかし勇気を持って、なぜビリを走っていたのかを深く考えることは、次回の徒競走のときのビリ脱出へ繋がる行為になります。競争の持っている残酷性も裏にはあるのですが、あえてここでは触れないことにします。

いったん勉強嫌いになってしまった子たちのほとんどは、返却されたテストのバツの部分に目を向けようとはしません。恐怖心です。

A君は英語が苦手です。彼の口から「英語やります」という声が聞かれるのをじっと待ちます。そして出ました。「あの一、英語やります。」

ある日の授業で、春休みに出ていた英語の宿題からテストが行われるとの情報、仕方ないから単語を一つでも書けるようにしておこうか、ということで練習を始めました。そして彼はびっしり単語で埋まったプリントを持ってきました。すごい量です。

特に私からはどのくらいの練習量を、とは言ってなかったのですが、彼なりのまじめさで書いてきたのでしょう。

で、私は即座にメモ用紙を手に取り「〇〇を書いてみて」と促がします。ひとつの熟語を出題しました。

結果、書けないのです。「……………」

小学校生活6年間を通じて身につけてしまった『やまい』だったのです。どういうことかと申しますと、小学校1年生から出る「宿題」にあったのです。子どもたちの中にある宿題の定義は「やる」です。やってあれば良いのです。宿題はやるかやらないかで評価されます。彼の中で知らずのうちに起こってしまった『やまい』とは、漢字の宿題の際、書いてあればよいわけで、書きながらも別のことを考えながら書く習慣が身につけてしまったのです。食事をしながらテレビを見るのと同じです。

その積み重ねは、やがて当たり前な行為として体に焼きつきます。ですから単語の練習でも、その感覚のまま手が動きます。練習したとしても入っていないのです。テレビを見ながら食事をした後、何を食べたかあまり覚えていないのと同じです。

私は彼に、その心の状態を説明し、あらためて練習してもらいました。そして惜しいながらも、90%まで書けたのです。その際、発したことは「ちくしょう」……。真剣に取り組んだときに発せられることばです。

もうひとつ、4年生のB子ちゃん、夜の中学生のクラスで勉強しています。周りの子たちの取り組む姿に感化されたのでしょう。英語がやりたいとのこと。それで早速いくつかの単語を書く練習を始めました。もちろんアルファベット練習を終えてからです。で、さきほどのA君と同じように、練習後、即、メモ用紙を差し出し、「書いてみて」と……やはり書けません。この子は低学年当事から宿題が比較的多いクラスで過ごしてきました。『やまい』にかかっていたのです。そしてそのことをお話したのち、実際練習……結果、書けました。

というように、宿題に取り組む際の取り組む気持ちを1年生当事からしっかりと『躰』として身につけなければ、子どもたちは皆、この『やまい』にかかってしまいます。

よくお母さま方も見かける光景だと思いますが、勢いよく漢字練習の宿題をやっているが、学校からもらってくるテストの結果を見ると、無残な点数……。この子はひょっとして……そう思われる方は多いはずです。そんな事はありません。子どもたちは学校からの命令を着実に守っています。書いてあればよいのですから……。

私は宿題の真のありかたについて、学校および保護者がしっかりと説明し、子どもたちのこころにまで気をくばり、指導する必要があると思います。私が担任であれば、1年生の子たちに宿題を学校でやっていただきます。宿題を行う際の心の持ち方をしっかりと身につけていただいてから、家庭での宿題をお願いします。しかも自由です。なぜなら、宿題は覚えるために行うものです。人は千差万別、覚えるための量も時間も違うはず、しっかりと覚えたなと感じていれば、そこまででよし、まだまだだと思えば、さらに練習するもよし……。これこそが真の宿題の姿ではないでしょうか。

この『やまい』の修正は、長年箸を右で持っていたのを左に替えるくらい時間のかかることだと思います。

A君、Bちゃん、君たちが悪いわけじゃないのです。君たちは充分まじめに取り組んでいます。ありがとう。